

製品名: CBP (アセチル Lys1535) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab06176**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	アセチル化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	265kDa

抗原情報

遺伝子名	CREBBP
別名	CREBBP; CBP; CREB-binding protein
遺伝子 ID	1387.0
SwissProt ID	Q92793
免疫原	抗血清は、Lys1535 のアセチル化部位周辺のヒト CBP 由来の合成ペプチドに対して産生された。 アミノ酸範囲: 1501-1550

背景

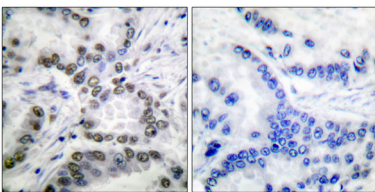
この遺伝子は普遍的に発現しており、多くの異なる転写因子の転写共活性化に関与しています。cAMP 応答配列結合タンパク質

(CREB) に結合する核タンパク質として初めて単離されたこの遺伝子は、クロマチンリモデリングと転写因子認識を連携させることで、胚発生、成長制御、恒常性維持に重要な役割を果たすことが現在では知られています。この遺伝子によってコードされるタンパク質は、固有のヒストンアセチルトランスフェラーゼ活性を持ち、転写複合体とのさらなるタンパク質相互作用を安定化させる足場としても機能します。このタンパク質は、ヒストンタンパク質と非ヒストンタンパク質の両方をアセチル化します。このタンパク質は、プロモドメイン、システイン-ヒスチジンリッチ領域、およびヒストンアセチルトランスフェラーゼドメインにおいて、タンパク質 p300 と非常に高い配列類似性を共有しています。この遺伝子の変異は、ルビンスタイン・テイビ症候群 (RTS) を引き起こします。染色体転座は触媒活性を阻害する: アセチル CoA + ヒストン = CoA + アセチルヒストン。疾患: CREBBP に関連する染色体異常は、急性骨髄性白血病の原因となる可能性がある。MYST3/MOZ との転座 t(8;16)(p11;p13)、MLL/HRX との転座 t(11;16)(q23;p13.3)、MYST4/MORF との転座 t(10;16)(q22;p13)。MYST3-CREBBP は、RUNX1 を介した転写を阻害することで白血病を誘発する可能性がある。疾患: CREBBP の欠陥は、ルビンスタイン・テイビ症候群 (RSTS) [MIM:180849]の原因である。RSTS は、頭蓋顔面異常、幅広い母指、幅広い母趾、知的障害、および悪性腫瘍発症傾向を特徴とする常染色体優性疾患です。ドメイン: KIX ドメインは HIV-1 Tat への結合を媒介します。機能: ヒストンをアセチル化し、転写活性化のための特異的なタグを与えます。また、NCOA3 コアクチベーターなどの非ヒストンタンパク質もアセチル化します。リン酸化 CREB に特異的に結合し、cAMP 応答性遺伝子に対する転写活性を高めます。オンライン情報: P300/CBP エントリ,PTM: CARM1 による KIX ドメインのメチル化は、CREB との結合を阻害します。その結果、CREB シグナル伝達が阻害され、アポトーシス応答が活性化されます。PTM:DNA が損傷すると、おそらく ATM または ATR によってリン酸化されます。PTM:SUMO 化は、DAAX のリクルートメントを介して転写活性を負に制御します。類似性:プロモドメインを 1 つ含みます。類似性:KIX ドメインを 1 つ含みます。類似性:ZZ 型ジンクフィンガーを 1 つ含みます。類似性:TAZ 型ジンクフィンガーを 2 つ含みます。サブユニット:NCOA2、NCOA3、IKKA、IKKB、および IKBK G を含む複合体で見つかります。おそらく HIF1A および EP300 との複合体の一部です。リン酸化 CREB1 と相互作用します。CITED4 の C 末端領域と相互作用します。TAZ タイプ 1 ドメインは HIF1A と相互作用します。MAF、SRCAP、CARM1、ELF3、MLLT7/FOXO4、N4BP2、NCOA1、NCOA3、NCOA6、P CAF、PELP1、PML、SMAD1、SMAD2、SMAD3、SPIB、および TRERF1 と相互作用します。HTLV-1 Tax および p300 と相互作用します。HIV-1 Tat と相互作用します。KLF1 と相互作用します。この相互作用により、KLF1 がアセチル化され、転写活性が強化されます。ZCCHC12 と相互作用します(類似性による)。DAXX と相互作用します。この相互作用は CBP の SUMO 化に依存し、DAAX への HDAC2 のリクルートメントを介して転写活性が抑制されます(類似性による)。MTDH と相互作用します。NFATC4 と相互作用します。MAFG と相互作用します。この相互作用は MAFG の塩基性領域をアセチル化し、DNA 結合活性を増強することで NFE2 の転写活性を刺激する。IRF2 と相互作用し、IRF2 をアセチル化し、H4 プロモーターにおけるその活性を制御する。

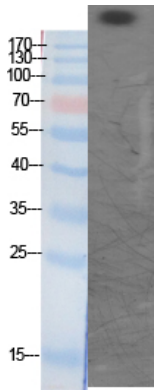
研究分野

血管新生を調節する; タンパク質のアセチル化

画像データ



CBP (アセチル-Lys1535) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト肺癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像。



アセチル CBP (K1535) ポリクローナル抗体を 1: 1000 に希釈し、様々な細胞をウェスタンブロット解析した。二次抗体は 1: 20000 に希釈した。